

CONTENTS

高校3年間で『心からやりたいこと』を見つけよう！

高校～大学卒業後 誌上シミュレーション 2

特集

新課程入試でどう変わった？ 知っておこう！ これからの大学入試...	4
「英語外部検定利用入試」について知ろう！	8

高校情報

中学と高校 ◆ これだけ違う！	
高校入学 BEFORE → AFTER	10
高校はこんなに違う！	12

大学の選び方

目的をもって3年間を過ごそう	
将来を見据えて行きたい大学を選ぼう！	14
1 Plan 「どんな職業に就きたいか」考えよう！	16
2 Search 就きたい職業から「学科・学部」を探そう！	18
3 Select 自分に合った「行きたい大学」を選ぼう！	20
4 Do 行きたい大学の入試対策を始めよう！	22

入試問題

高校入試と大学入試の違い	
公立高校入試と共通テストの問題を比較！	24
英語	24
数学	26
国語	28
理科	30
社会	32

学習対策

もう大学入試は始まっている？	
高1からの入試対策	34

高校はこんなに違う！

中学と高校では、その勉強の内容は大きく違います。

ここではその違いを、「教科」「勉強」「テスト」の3つの視点からみていきましょう。

教科はこう変わる

高校では、中学よりもさらに内容を深く学びます。主要な5つの教科について、2022年度からの新学習指導要領をもとにその概要をまとめました。

国語

国語表現
古典探究

高校の国語には、「現代の国語」「言語文化」「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」という科目があります。たとえば「現代の国語」では、法令文などの実用的な文章を題材として扱う教科書もあります。「古典探究」では、中学の古典に比べて単語数が増え、文法事項も複雑になります。

高校の国語は、日ごろから文章に親しんだり、古典の知識を確かにしておくことが、中学よりもはるかに厳しく要求されると言えるでしょう。

数学

高校の数学は、「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「数学A」「数学B」「数学C」の科目に分かれます。このうち、「数学Ⅰ」はほとんどの高校で勉強します。ほかの科目の履修は各高校のカリキュラムや、文系・理系など大学進学のコースによって異なります。内容は、中学の知識を基礎としたものから始まりますが、次第に「数列」や「微積分」などのまったく新しい単元が登場し、一気に難易度が上がります。いずれにしても、高校の数学は、中学とは比べものにならないほど内容が濃いので、毎日の予習・復習は欠かせません。

$$\sqrt{3}^7 \int 6 \div + 4$$

英語

高校の英語には、「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」という科目があります。高校では、これらの科目をカリキュラムに応じて必修・選択に振り分けて学んでいきますが、中学よりもさらに豊かな語彙力と文法力、コミュニケーション力や英文解釈のセンスを身につけることが要求されるのは、どの高校でも共通しています。英語は、大学受験で必ず課される、最も重要な教科。リスニングや会話文などにも慣れながら、継続して学ぶ姿勢が大切です。

Abcisz

地歴・公民

高校では、中学までの「地理・歴史・公民」といった分野が細分化され、「地理総合」「地理探究」「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」「公共」「倫理」「政治・経済」という科目に分かれます。とくに「公共」は必須で、主体的に社会に参画する力を身につけることを目的とします。

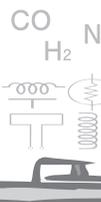
各科目の内容も、これまでとは違い、ことがらの背景を説明したり、資料を分析するような思考力・判断力が求められるようになります。基本的な用語をおさえるだけでなく、一歩進んだ学力を求められるようになると言えます。



理科

5教科のうち、高校で最も多くの科目に分かれるのが理科です。「科学と人間生活」「物理基礎」「物理」「化学基礎」「化学」「生物基礎」「生物」「地学基礎」「地学」に分かれて、どれを学ぶかは、高校のカリキュラムで異なってきます。

基本的には、中学の理科と関連のある内容ですが、まったく新しい単元が次々と登場するうえに、数学的な思考を求められる科目もあるので、暗記だけでは対応できなくなることを覚えておきましょう。



将来を見据えて行きたい大学を

「高校を卒業したら、大学へ進学する」という漠然とした目標はあっても、どの大学・学部・学科にしたらいいのか今の時点ではっきりしない、まだ決めていないという人が多いと思います。しかし、大学選びは、将来の職業や、生き方・関心のあるテーマから考えて選ぶことが最も大切です。最近、受験生のほぼ半数が推薦型の入試で高3の年内に進

進路を決めています。急いで安易に大学を選んでしまうと、「自分が学びたい学問ではなかった」「将来やりたいことと今の大学での学びはつながらない」などとあとで後悔することになりかねません。

高校生活は、自分の就きたい仕事は何か考えて、「こんな仕事がしてみたい」というものを探し出すことから大学選びをスタートさせましょう。

将来を見据えた大学選び

START!!

1 Plan

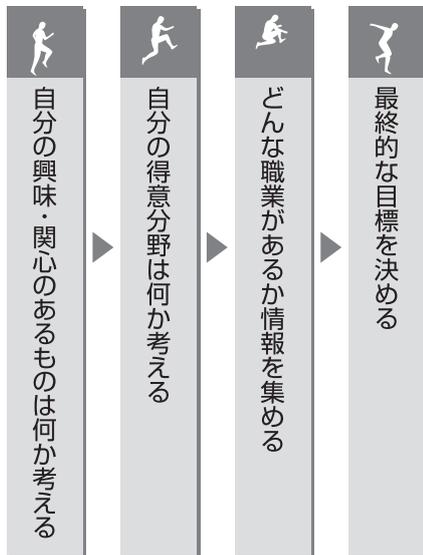
「どんな職業に就きたいか」
考えよう！

「自分が将来やってみたい仕事って何だろう？」これを今の時点で考えるのは、なかなか難しいことかもしれません。

将来の職業選びは、いま、自分自身が関心を持っている事柄や、興味を持っているものに関連する職業の中から、「こんな仕事がしてみたい」と思うものを探しましょう。また、自分が得意な分野について考えてみるのもよいでしょう。

たとえば、数学が得意な人は、数学の能力を使って働く仕事にはどんなものがあるのか調べてみるのです。数学を教える仕事（教師）をはじめ、データサイエンス、AI、金融工学など、さまざまな職業が見つかると思います。

👉 就きたい職業、こうやって探そう！



もっと詳しく知りたい人は、
「どんな職業に就きたいか」考えよう！ P.16へ

2 Search

就きたい職業から
「学科・学部」を探そう！

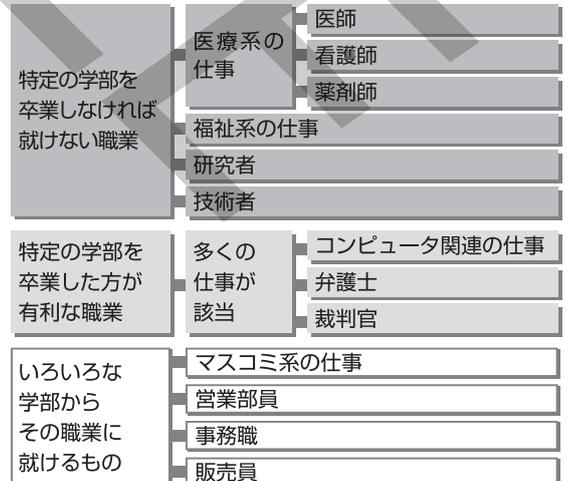
自分が関心のある将来の職業分野が見つかったら、それに必要な知識や技術を身につけるための大学を選ばなければなりません。

大学選びでは、つい大学名から決めようとしがちですが、そうではなく、最初に決めた「就きたい職業」に必要な知識・学問や技術が身につけられる「学科」はどこにあるか探すことから始めます。

学科が見つければ、その学科が置かれている「学部」がわかり、その学部のある「大学」を探し出すことが可能となります。

職業と学部の間には密接な関連があります。職業によっては、特定の学部を卒業していないとその仕事に就けないものもありますので注意が必要です。（下の図参照）

👉 学部と職業の関係(例)



もっと詳しく知りたい人は、
就きたい職業から「学科・学部」を探そう！ P.18へ

選ぼう！

「大学受験なんてまだ先、高校に入ってから3年間でじっくり考えればいい」そう思っている人が多いと思います。しかし、志望校を早いうちから決めて、人よりも先に受験対策に取り組んだほうが、大学受験は有利に進むでしょう。ここでは将来を見据えた大学選びをどうやればよいのか、そのポイントを見ていきましょう。

高校3年間で「大学選び」のスケジュール(例)

高1	高2	高3
<p>「文系・理系」のどちらにするか考える</p> <p>*学校推薦型選抜の受験を視野に入れる場合は、学校の成績を意識する</p> <p>「大学・短大・専門学校」の違いを知っておく</p>	<p>夏休み その学部がある「学部」を探す</p> <p>→ 将来の職業や自分が学びたいことに関連した「学科」を探す</p> <p>その学部のある「大学」(10~15大学程度)を探す</p>	<p>2学期 選んだ大学について概略を調べる</p> <p>→ 選んだ大学について概略を調べる</p> <p>夏休み頃 *総合型選抜を選択した場合、準備を早めに進める</p> <p>→ 選んだ大学から自分が合う大学を絞り込む(4~6大学程度)</p> <p>9月まで 最終志望校を3~4大程度に絞る</p> <p>入試直前まで 入試対策の勉強を進める</p>

3 Select

自分に合った「行きたい大学」を選ぼう！

将来の職業を考えて学科選びを始めれば、学科→学部→大学と選んでいくことができます。こうして学科から逆引きで大学を探すと、かなりの数の大学が浮かび上がり、その中から自分にマッチした大学を絞り込んでいくこととなります。大学を絞り込む際、次のような項目についてチェックしていきましょう。

大学選びの Check Point × 7

- 1. 自宅通学可能か、下宿になるか
県外の大学など、下宿しなければ通えない場合、費用もかかることになるので、保護者とよく相談することが必要です。
- 2. 交通の便はどうか
毎日通うとなると、通学時間や交通の便も大学選びの重要なポイントです。
- 3. 学びのための設備・環境は整っているか
学びたいことが学べるかどうか、教授の研究内容や講座、大学の設備、キャンパス周りの環境なども調べておきましょう。
- 4. 大学の雰囲気はどうか
大学にはそれぞれ建学の精神があり、それぞれのスクールカラーがありますから、それが自分に合っているかを調べましょう。
- 5. 学費はどうか
学費がどの程度必要となるのか、奨学金制度はどうなっているのかなどを調べて、保護者とよく相談して大学を絞り込みましょう。
- 6. どのような入試が行われるか
入試の形態はどうなっているのか、自分に合った入試制度が実施されているかなどをチェックします。
- 7. 就職指導は十分にしてくれそうか
どの大学も就職指導に力を入れはじめています。どのような指導体制になっているか、複数の大学を比較しながらチェックしましょう。

*大学の情報は、大学の公式サイトやSNS、オンラインオープンキャンパスなどを活用して調べましょう。

もっと詳しく知りたい人は、
自分に合った「行きたい大学」を選ぼう！ P.20へ

4 Do

行きたい大学の入試対策を始めよう！

大学入試は高校入試と違って、いろいろな選抜方法があります。国公立大学と私立大学の入試制度を比べてみても、大学入学共通テストや英語外部検定の利用方法、入試教科・科目数などで大きな違いがあります。もちろん、入学試験ですから学力を問うものが中心となりますが、受験生の学びに対する意欲や姿勢、他人と協力しながら学ぶ態度も問われます。筆記試験がメインの「一般選抜」、書類審査や面接などに加えて学力試験、小論文などで多面的・総合的な評価を行う「学校推薦型選抜」「総合型選抜」があります。

大学入試 3 パターン

一般選抜

筆記試験に加え、調査書や志願者本人が記載する資料を活用する大学もある。「大学入学共通テスト」において思考力・判断力・表現力が問われ、英語では読解力だけでなくリスニング力も問われる。

学校推薦型選抜

高校での学業成績や特技、取得している資格などを重視する入試。高校の校長からの推薦書が必要。入試は各大学が実施する評価方法(小論文や面接、学力検査など)または共通テストのうち、少なくともいずれか一つが活用される。

総合型選抜

受験生が記入した提出(活動報告書、大学入学希望理由書など)が活用される。入試は各大学が実施する評価方法(数回にわたる面談で「人物」「意欲」などを評価など)または共通テストのうち、少なくともいずれか一つが活用される。

もっと詳しく知りたい人は、
行きたい大学の入試対策を始めよう！ P.22へ

Search どんな学科・学部があるかを探してみよう

A君の場合

めざす職業を定めたら、次は、そのためにどんな学科・学部へ進めばよいのかを考えていきましょう。
A君の例や、左のページにある、学部と仕事の関係も参考にしてください。



ITエンジニアになるためには、どうやらコンピュータやネットワークの技術や知識を学べる学科・学部に行くことが必要。そこで、理科系の学科・学部を中心に、いろいろ調べてみました。

① 就きたい職業

ITエンジニア

② その職業に必要な技術や知識・能力

ネットワークのいろいろな基礎知識
ネットワークの情報
ネットワークをつくる技術
コンピュータの知識
根気
集中力

ITエンジニアになるためには、専門的な知識や技術が必要なのかな、書いてみることにしよう。

③ 就きたい職業に必要な技術や知識が学べる学科・学部

〈学科〉
情報工学科
メディア情報学科
コンピュータ科学科
システムデザイン学科
経営情報学科
情報デザイン学科

〈学部〉
総合情報学部
情報学部
経営情報学部
理工学部
工学部
デザイン工学部

たくさんの学科・学部があって、ちょっとびっくり。理系だけじゃなく、経営情報、デザインや情報を組み合わせる分野もあることを発見しました。受験するには、それぞれの学科や学部の特色を調べないといけないなあ……。



ITエンジニアになるために、今からできることはなにか考えてみました。毎日頑張るぞ！

④ チャレンジポイント！

集中力を高めるために毎日30分間、集中して新聞を読む！

Search キミのことを書いてみよう

① 就きたい職業

② その職業に必要な技術や知識・能力

③ 就きたい職業に必要な技術や知識が学べる学科・学部

p.17と同様、1～4の番号に沿って記入してみましょう。学科・学部については、左のページを参考にするほか、インターネットなどで調べてもよいでしょう。就きたい職業によって、学科・学部がほぼ絞られていることがわかったり、逆に、A君のように、意外な学科・学部が見つかることもあります。

④ チャレンジポイント！